

園芸タイムリー情報 《6月上・中旬版》

令和4年6月3日発行 第2号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は平年並みで、降水量・日照時間はほぼ平年並みの見込みです。

- ①ハウス栽培は、気温の変動や生育ステージに応じた温度管理、水管理を徹底しましょう。
- ②曇天後の晴天時には土壌水分不足に、温度が急速に低下し湿度が高まる時はモヤ抜き換気に留意しましょう。
- ③ほ場周辺の雑草除去などのほ場衛生管理を徹底し、ハダニ、アブラムシ類、アザミウマ類等の飛び込み防止に努めましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆育苗ハウス内で農薬をペーパーポットやセルトレイにかん注処理または、粉剤や粒剤を処理した場合は、後作物の栽培を避けましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和4年5月25日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

【農作業安全編】

―農作業を安全に行うために 農作業中の熱中症対策―

気温が上昇するこれからの時期は、熱中症予防に十分留意しましょう。

- 新型コロナ対策のマスクは、屋外やハウスなどで人と十分な距離が確保できる場合は、適宜マスクを外すようにしましょう。
- なるべく2人以上で作業し、時間を決めて、異常がないか確認し合うようにしましょう。
- 定期的に休憩するとともに、喉が渇いていなくても、こまめな水分や塩分補給を心がけましょう。
- 屋外では帽子や吸汗速乾性素材の衣服など熱中症予防グッズを活用しましょう。

作物名

トマト・ミニトマト

病虫害
生理障害名

灰色かび病

発生状況

発生に注意

発生時期

6月上旬



がくから感染した
発病果実



葉の病斑とかび

発生の状況・要因

- ・発生は見られていないが、週間予報では雲が多く湿潤な天気が続く見込みであることから、予防的な防除が必要である。
- ・昼夜の温度差で、茎葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

対策

- ・結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- ・枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- ・葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を確保する。

<防除の一例>

予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで
トマト（直径3cm以下を除く）：4回以内
ミニトマト：2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤
2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ピーマン・ししとう・なんばん

病虫害
 生理障害名

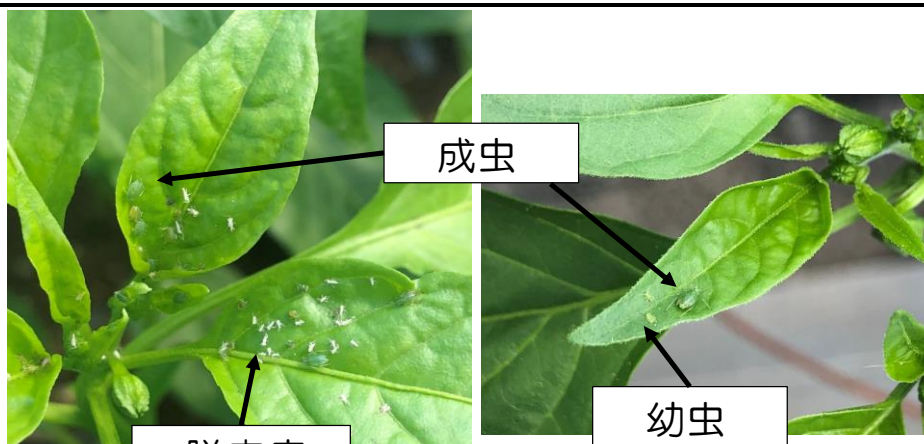
アブラムシ類

発生状況

微～少発生

発生時期

5月下旬～



モモアカアブラムシ
 (R4/5/31 なんばん)

発生の状況・要因

- ・モモアカアブラムシの発生が見られている。
- ・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。

対策

- ・多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。
- ・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、散布は丁寧に行う。

<防除の一例>カブリダニ類の導入時にも使用可能


ピーマン

- ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内
- トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

ししとう・なんばん(とうがらし類)

- スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名		
キスジノミハムシ		
発生状況		
少発生		
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)	こまつな葉部食害
5月下旬~		

発生の状況・要因

- 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。
- 気温の上昇に伴い、5月下旬から成虫の発生が見られる。
- 6月も引き続き発生に注意する。

- 成虫期間：1~4ヵ月
- 卵期間：5~7日
- 幼虫期間：10~20日
- 蛹期間：3~15日

対 策

- 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。
- 土壌施用粒剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。
- ハウス内外の雑草や作物残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。

＜防除の一例＞

こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回

チンゲンサイ

- スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回

パカグサイ・ターサイ・みずな・こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
生理障害名

コナガ成虫



コナガ

発生状況

少発生

発生時期

5月下旬～

コナガ幼虫



幼虫による葉の被害

発生の状況・要因

- ・幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- ・比布町では4月11日（平年比7日早）に成虫の初発が確認された。
- ・5月下旬より、幼虫の初発を確認しており、今後も幼虫の発生に注意が必要である。

対策

- ・ほ場の観察に努め、初発を逃さないよう防除を開始する。
- ・防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- ・品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- ・ジアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜など葉菜類全般

病虫害
生理障害名

ウスカワマイマイ

ナメクジ類
カタツムリ類

発生状況

少～中発生

発生時期

5月中旬～



チャコウラナメクジ

発生の状況・要因

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、這った痕の粘液の汚れ、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 5月中旬以降カタツムリ類の発生が目立っているため、今後も注意が必要である。

対策

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
- スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。

＜防除の一例＞

●スラゴ 1～5g/m² (3.3～16.5g/坪) 発生時

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。